

令和7年度

# 「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立田中小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標 (令和8年度末までに達成を目指す目標)

**現状と課題**

「豊かな心を持ち、経験や体験を大切に、基礎基本を基に自ら考えて行動できる『たなかの子ども』の育成」を中期目標に掲げ、基礎基本の定着に向けて取組を進めてきた。児童の学校生活態度は落ち着いており、いじめについては、早期発見・早期対応により、深刻化しないうちに解決できている。しかし、不登校児童は毎年一定数いる現状がある。

学力については、対話的な学びに重点を置いた校内研究実践により、学習中の話し合い活動への取り組みは年々充実し、経年調査の話し合い活動についての質問に肯定的に回答する児童の比率は、3つの学年において大阪市平均を上回った。経年調査の平均正答率は、全国と比較して、2つの学年が上回り、2つの学年が下回ったが、前年度と比較すると全ての学年が上昇している。

体力については、隣接するスポーツ施設を活用する取組を続けてきている。運動能力調査において、大阪市平均を上回る結果となった。

ICTの活用については、デジタルドリルの積極的な活用や授業中の発表ツールとしての活用に努めているが、まだ、十分ではない。

働き方改革については、行事や会議の見直し、専科制の取り入れや定時セットデーの設定により、時間外勤務時間は大阪市平均を下回っているが、まだ、十分ではない。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

○全国学力学習状況調査の児童質問紙「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を55%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

○デジタル教材を活用した朝学習を週2回以上実施する。

○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回以上実施する。

○ICTを授業で日常的に活用する。

○「ゆとりの日」を毎週設定する。

○教職員一人当たりの時間外勤務時間を月平均22時間以下にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85.9%以上【前年度 85.8%】にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.2%以上【前年度 76.1%】にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上【前年度 42.8%】にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上【前年度 70.8%】にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教職員の割合を前年度以上【前年度 68.2%】にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

《年度目標》 小学校学力経年調査結果より

#### 【安全・安心な教育の推進】

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は87.0%で、前年度85.8%を上回った。

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は78.4%で、前年度76.1%を上回った。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は45.0%で、前年度42.8%を上回った。

●「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は70.7%で前年度70.8%を下回った。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が12月末時点で127日であり、年間授業日（12月末まで）の83.5%で目標値の50%を上回った。

●「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合は66.7%で、前年度68.2%を下回った。

☆6項目中4項目で達成であり、残り2項目もわずかしかが下がっていないので、全体的に年度目標を達成できたと言える。

《中期目標》 令和4年4月設定

#### 【安全・安心な教育の推進】

○全国学力学習状況調査の児童質問紙「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は94.9%で目標値85%を大きく上回った。

○令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は3.04で令和3年度比率4.06より減少した。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 小学校学力経年調査結果より

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は45.0%で、目標値40%を上回った。

○「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は70.7%で、目標値55%を大きく上回った。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

○デジタル教材を活用した朝学習を目標値の週2回以上実施できた。

●学習者用端末を活用した家庭学習を目標値の週1回以上は実施できなかった。

○ICTを授業で日常的に活用できた。 ○「ゆとりの日」を毎週設定できた。

●教職員一人当たりの時間外勤務時間は月平均23時間32分（1月末時点）で、22時間以下にはできなかった。

☆9項目中7項目達成しており、4年間の活動を通して中期目標を達成したと言える

## 大阪市立田中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85.9%【前年度 85.8%】にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76.2%以上【前年度 76.1%】にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○いじめ（いのち）について考える日での指導、情報モラル教育の全学年での実践などを行い、いじめの未然防止に努める。</p> <p>○いじめの早期発見・解決のために、定期的にいじめアンケートや児童支援委員会を行ったり、スクールライフノートの相談申告機能を活用したりして、全教職員の共通理解のもと、組織的に対応し解決を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>・児童アンケートの「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。(R4:80.9%、R5:87.0%、R6:91.6%、R7:94%)</p>	
<p>取組内容②【豊かな心の育成】</p> <p>○児童会活動を中心とした異学年交流やキャリアパスポートの活用により、自己肯定感を高め、自分のよいところに積極的に気づける子どもを育成する。</p> <p>○ゲストティーチャーによる豊かな体験活動の実施により、一人ひとりの違いを認め合える集団作りに努める。</p>	B
<p>指標</p> <p>・年間3回以上、学期末や行事ごとに、キャリアパスポートを活用する。</p> <p>・児童アンケートの「自分には、よいところがあると思いますか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。(R6:81.0%、R7:77%)</p> <p>・各学年でゲストティーチャーによる豊かな体験活動を実施する。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は87.0%で、前年度85.8%を上回った。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は78.4%で、前年度76.1%を上回った。
- 「いじめ・いのちについて考える日」での指導や、情報モラル教育を計画的にすすめることができた。
- 学期に1回いじめアンケートを行い、いじめの早期発見、解決に努めたり、月に1回児童支援委員会を実施して、全教職員で児童の情報を共有したりすることができた。その結果、児童アンケートの指標が前年度を超えることができた。
- キャリアパスポートは各学年で活用しているが、学年間で取り組みに差があり、学校全体での積極的な活用までには至っていない。
- 児童会を中心とした異学年交流は継続して取り組みができています。
- ゲストティーチャーに関しては、各学年で体験活動を実施することができた。
- 各学年で取り組みはしているが、取り組み内容から自己肯定感につなげることが難しい内容もある。

## 次年度への改善点

- 引き続き定期的にいじめアンケートや児童支援委員会を行い、全教職員の共通理解を図り、児童が安心して過ごせる環境づくりをさらに進めていく。
- 次年度以降も、児童にとっての豊かな体験活動を計画し実施をしていく。  
また、成功体験が積み重ねられる場面を意図的に設定したり、キャリアパスポートの内容を自己肯定感につながるものに見直したりすることで、児童の自己肯定感を高めていくよう努めていく。

## 大阪市立田中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度以上【前年度 42.8%】にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上【前年度 70.8%】にする。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学びチェックシートの活用や学習の振り返りを設定することで、学習意欲を高め学力の向上を図る。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びにつながる、ICTを活用した指導法の工夫する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を前年度以上にする。</p> <p>(R4:47.5%、R5:49.0%、R6:62.8%、R7:52%)</p>	
<p>取組内容②【健やかな体の育成】</p> <p>○がんばりカードの活用や強調週間の設定による日々の運動に対する工夫により体力・技術の向上を図り、運動やスポーツの楽しさを実感する児童を育成する。</p>	A
<p>指標</p> <p>・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な回答する児童の割合を前年度以上にする。</p> <p>(R4:71.0%、R5:75.2%、R6:69.9%、R7:72%)</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は45.0%で、前年度42.8%を上回った。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は70.7%で、前年度70.8%をわずかに下回った。

○どの学年でも効果的にICTの活用をすすめてきた結果、主体的・対話的で深い学びにつながる事ができた。

（校内児童アンケートの指標）「友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的な回答は52%であり、昨年度の62.8%を下回ったものの、肯定的な回答をする児童は86%と高い数値を維持できた。

○がんばりカードの活用により、かけ足に一生懸命取り組んでいる姿が多くみられた。

○アスリートの方に来ていただく体験活動により、運動に興味をもつ児童が増えたように感じる。

○運動委員会が中心となって、楽しく運動をする時間を確保することができた。

（校内児童アンケートの指標）「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、肯定的に回答する児童の割合は91%と高い数値であった。

## 次年度への改善点

○次年度も、学びのチェックシートの活用等を通して、振り返りの時間を確保していく。

また、チェックシート（振り返り）については、紙アンケートだけでなく、グーグルフォーム等も活用して、負担なく取り組めるよう工夫していく。

○体育の時間の充実をはかりながら、児童会活動や学校行事で楽しく体を動かすことができる機会を積極的に作っていく。

## 大阪市立田中小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を前年度以上【前年度68.2%】にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DXの推進】</p> <p>○朝の学習タイムのうち週2回をデジタルドリルタイムとするとともに、タブレットを児童が持ち帰る機会を月2回作ることで、児童が日常的にタブレットを活用できるようにし、情報機器活用能力を高める。</p> <p>○授業でICTを活用する場を増やし、1日1回はICTを活用する。 あわせて、『こころの天気』の日々入力(朝の入力をルール化)、児童用デジタル教科書(5,6年用)の活用を進めていく。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を活用した朝学習を週2回実施する。 (週2回実施 R6:10/10学級、R7:11/11学級)</li> <li>・学習者用端末を活用した家庭での学習を月2回実施する。 (月2回実施 R6:10/10学級、R7:11/11学級)</li> <li>・ICTを利用した学習を1日1回以上実施する。 (日1回以上実施 R6:10/10学級、R7:11/11学級)</li> <li>・『こころの天気』の1日1回以上の入力(朝の入力をルール化)を行う。 (日1回以上の入力 R7:11/11学級)</li> </ul>	
<p>取組内容②【人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○「ゆとりの日」を毎週設定し、その日は午後6時までに退勤するようにする。</p> <p>○時間外労働時間・年休取得日数の見える化を図り、教職員の意識向上を図る。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆとりの日」を毎週設定する。 (R6:毎週設定、R7:毎週設定)</li> <li>・教職員一人当たりの4~12月の時間外勤務時間を月平均23時間以下にする。 (R6:21.6時間、R7:24.1時間)</li> </ul>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の83.7%（1月末時点）であり、目標値の50%以上を大きく上回った。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合は66,7%であり、前年度68.2%を下回った。
- 学校全体での取り組みにより、ICT活用頻度は全ての項目で目標を達成できた。特に、研究授業での取り組みや各種研修により、児童のICTスキル(入力、検索、構成等)および指導者のICT活用スキルも大幅に向上した。
- 児童による『こころの天気』の朝の入力がルーチン化され、教職員の児童把握の1つの指標となりつつある。
- 家庭でのタブレット活用状況（ナビマ活用等）には差があり、学校からの支援が必要である。
- 「ゆとりの日」を毎週設定し、18時セットに努めることができた。また、専科制や交換授業等の実施、ホーターやSSSの活用により、教職員の空き時間の確保にも取り組むことができた。
- 時間外勤務時間についても、教職員の意識向上がみられた。

## 次年度への改善点

- 朝のタブレット使用時のルールとして、「心の天気」の入力を引き続き徹底し、学校全体での児童把握や指導に生かしていく。
- 次年度の研究テーマである「思考力・表現力向上」につながるICT活用や振り返り活動のデジタル化を進めていく。
- 教科横断的なICT活用の実践事例を教職員間で共有し、活用の質を向上し「高い頻度での日常活用」をめざす。
- 教職員の負担軽減のため、学校行事や会議等の精選、外部人材の活用を積極的に行っていく。
- 週1回の「ゆとりの日」の設定、交換授業等の取り組みを継続し、教職員全員で(チームとして)、時間外勤務減少に向けて取り組むことができる環境を整えていく。